

2013 フィジーダイバーシティスタディーツアー報告会

・活動報告会

日時：平成 25 年 8 月 18 日(日)午前 10 時より午後 3 時 20 分

場所：柏崎市 市民プラザ 学習室 302

内容：参加者 25 名 (男 6 女 19)

10:00～12:30

発表準備 自分のテーマに沿ったポスターを作成

写真を使い報告内容に沿ったものを作り、午後の発表準備をする。

発表の順番を決める。

13:30～14:25 司会 清水事務局長

あいさつ 今井元紀理事長

体験報告 1 栗林文香 「フィジーの植物・生きもの達」

2 東條華佳 「子ども達の将来の夢」

3 黒金みなみ 「フィジーの人達」

4 石川瑛理 「日本とフィジーの関係」

5 羽鳥浩平 「フィジーの上下水道」

6 片桐敏希 「フィジーの食生活」

引率者感想 石垣百合子 (柏崎地域国際化協会・評議員)

旅の全体概要(PPT) 清水由美子

14:30～15:10 各自コーナーで個別ポスターセッション

土産紹介や報告内容、旅の感想等質問に答える。

おやつコーナー：豆菓子1種、揚げ菓子1種、ビスケット1種、麦茶

15:15 後片付けをして閉会



詳細行程

平成 25 年 7 月 25 日(木) 柏崎・新潟空港・韓国仁川空港

5:30 集合し保護者に見送られて出発する。刈羽で石垣さんが乗車し、西山 IC より新潟空港へ。7:20 に新潟空港着。JTB 斉藤さんと合流し、チケット・旅行保険証(申込者 3 名)・両替外貨(希望者 2 名)・フィジー対応旅行社連絡先等の情報を受け取る。搭乗手続きをして KE764 に乗り込み、韓国仁川空港へ。



仁川空港に着き、乗り換え手続きを経てフィジーへの出発ゲート 6 番を確認する。最終仕上げの事前研修として、交流する学校での出し物や発表する順番を決め、三階節の歌と踊りの練習をする。出発ゲートを集合場所とし必ずバディ(二人組)で動く事を約束し、自由行動とする。午後 3 時半より再集合し軽食をとる。空港内では日本円が使えるが、きちんと日本円に換算して請求する店とウオンの

値の 0 をとって請求する 2 種類がある。

どの子も緊張は見られるが元気である。フィジーへ向け 10 時間のフライト。機内で現地時間に合わせる。

平成 25 年 7 月 26 日(金) ナンディ・バ・ヴィタワ

時間通りにナンディ国際空港に到着。入国審査でグループチェックインを掛け合ったがダメで、一人一人手続きする。滞在先が記入してないと止められた。ヴィタワ村であると説明し回る。旅行社の記入例を参考に出入国カードに記入したが、滞在先が抜けていた。それぞれ係官が記入してくれたので、みんなは何が問題だったのか分からなかったかも知れない。荷物を受け取り税関へ。スムーズにいったようだったが、2 名がなかなか出てこない。待っている間に両替をし、私はフィジー国内の携帯電話のプリペイドカードを購入する。去年の森田さんから電話機は引き継いでいる。しかし 20 分くらい経ったが出てくる気配はない。出国後は税関内のドアの中に戻れないのが原則だが、係官に説明し特別に係員出入口から入れてもらう。中では中国人グループとベトナムからの労働者風な集団が荷物検査を詳しく受けていた。まさに私たちのメンバーのものを調べ始めたところだった。「ジャイカを知っているか? 隊員の派遣されている村や学校へ送る物資だ」と大げさに説明し、無事審査を終えた。

SPO(サウスパシフィックオセアニア)のバスが待っていた。日本で JTB を通し予約したのだが、去年の 1.9 倍の金額が要求された。それで再見積もりとして、ガイドがいらないという条件で出してもらったら 1.4 倍の金額に落ち着いた。旅行社の日本人スタッフはここでお別れ、「ここからは英語だけになりますから頑張ってください」と言われた。「頑張れって何を?」と思った。インド系のドライバー・クリス氏のバスに乗り込み、バまで 1 時間半のドライブとなる。

バの市役所で、青年海外協力隊員の矢野純子氏とスバからバスで来てくれる USP(南太平洋大学)の石垣稔氏と合流する事になっている。石垣氏には空港でフィジー到着を連絡する。バスでスバを出発し、ラキラキ付近にいたので、同じくらいにバ

に到着するとのこと。予定通り 12 時に合流し、矢野隊員の野菜ゴミなどから有機肥料をつくる活動をしている市場を見学し話を聞く。



村への土産ヤングナと飲み水ペットボトル各自用と 2 リットル 2 本・村滞在用トイレットペーパーを買いに店へ行く。各自は自分用のスル(腰に巻く布)を購入。昼食は、隊員が建設から関わり運営も教えていた支援施設のレストランへ行く。ジュースとキャッサバ・ココナッツミルクで煮た野菜と魚・パイナップルの乗ったプレート。子ども達は量の多さに圧倒

されていた。安価な家賃ですめる「ハートホーム」という二軒長屋のような建物が多く並んでいて、そこに住むシングルマザー達が運営している。こういう施設も海外の NPO などの支援で建設されたという。

2 時までには職場に戻らないと行けないという矢野さんと別れ、ヴィタワ村へバスを走らせる。ヴィタワ村の入り口に JICA の文字とミルクフィッシュの看板があるから、分かりやすい。1 時間と少しで目的のヴィタワ村に着いた。

少し待って、シティさん(村の世話役)に会った。集会場に入りホストファミリーとの対面を待つ。2 泊 3 日の間どんな活動をしたのかと質問される。伝えてあったのにも思いつつも、今年は村でじっくり過ごしたいこと、お客ではなく家族の一員として家の手伝いなど一緒にやりたい事、食事でも特別なものでなく、普段食べているものでよい事など伝える。それで滞在中の食事は各家庭でそれぞれが食べる事、9 人が 4 軒の家に分かれてステイする事などが決まる。ここでヤングナを一束渡し、入村儀式の口上をフィジー語でシティさんが述べ、村への入村が認められた事となった。



今晚は近くのワナナブビーチという高級リゾートで「メケショー」を村の人たちがやるという月に 2、3 回という日に当たっていた。シティさんに一緒に行くかといわれたが、移動手段が無くあきらめる。それで、明日村で見せてくれる事になった。

平成 25 年 7 月 27 日(土) ヴィタワ



10 時に田中専門家からティラピアの養殖について話を聞く。養殖には水の塩分管理が大変重要なのだという。ボードに細かく記入してあった。稚魚への餌やりも一度にではなく、長い時間かけて撒くように指導されている。経営も指導されていて、シティさんを中心に 4 人の村の人に養殖事業を任せているが、難しいものがあるとのこと。貧困の連鎖で利益

が出て、それを借りにくる村人へは無下に断れない立場にシティさんはいること。

支援プロジェクトも3年の期限が12月にくることなどを話された。また、フィジーでも貧困率の高いこの村に少しでも現金収入の道があるように近くの高級リゾートのイベントとして村の若者などが「メケ」といった伝統的な踊りを踊ったり、歌を歌ったりして収入につながるよう手配したこと、今回中古のギターやキーボードなどを持って来たことなど話された。現金収入があれば若者も村を離れなくてよくなるからである。田中専門家が地域に認められているからこそ、口利きで仕事ができるようになったのだと思った。

今日はちょうど年に2、3回ほどある教会の特別行事の日である。村が5つくらいの班に分けられていて、その班で教会の補修等のために寄付を募りその寄附額を競うらしい。入材料のようなものだから少しでも協力してほしいとのことで、全員分として寄付する事にした。水揚げの準備を待つ間に、幼稚園を訪問し、クレヨンを渡す。今年教育の方針が変わり、幼稚園の教育を受けなければ小学校の入学は認められなくなった事、それで近くの村からも園児が路線バスで通って来る事、バス停での送り迎えも先生の仕事である事など説明してくれた。園の様子は何かが違う。子どもの描画が無いのだ。尋ねてみると「絵は描く」という。描ける紙なども無いのだろうか。



水揚げは大きな池で行った。村では女性と子どもの仕事なのだという。村総出と行った人数ではなく関係者と家族の作業のようだった。捕獲の方法も村人に任せていたが、「あれでは捕まえない」と言いながらも田中専門家は口出しをせず、シテイさんらにアドバイスを少ししただけ。このプロジェクトは村が引き継ぐのだから将来のことも試しているのかも知れない。獲った魚はエアーの装置のあるタンクに入れて生きたまま市場へ持っていく。フィジーでは道路脇に魚を吊るして売っていた。干物ではなくそのままである。ヴィタワ村の魚は氷詰めにしたり、エアー装置で生きたまま持って行くので、市場では人気とのこと。これも田中専門家の努力の成果である。村民には1k5\$、市場では7\$で売るといふ。村からはなれた人も里帰りか親戚を尋ねてくるような日で木陰や家の前にあつまり、さながら持ち寄りパーティ的な様子である。キャサツバや野菜のカレー味のためのようなものを一日中食べて、カバ（胡椒科のヤンゴナの根を粉にし、水で溶いたもの）を飲んでいる。アルコール分は無く、鎮静作用があるという。フィジーでは必要不可欠な飲み物である。色は泥水のように、匂いは漢方薬のようで少しピリッとした味がする。

子ども達は村の子と交流している。散歩している子、自分の研究テーマに沿って質問をしている子、植物について名前等聞いている子思い思いに過ごしている。大人が準備しなくても子ども同士仲間を作り行動している。たくましい。



平成 25 年 7 月 28 日(日) ヴィタワ・ラウトカ



10 時半から教会で礼拝に参加する。スルチャンバ(女性の民族衣装)を貸してくれる。大柄な南国の模様と鮮やかな色使いだが、日本人にもよく似合う。

2時に集会場に集合し、二束目のヤンゴナを渡し、離村の儀式。ホームスティ代をシティさんに払う。この村では昨年初めて中学生高校生年代の日本人(私達)がホームスティした。この事を JICA はじめ多くの

人が発信してくれ、フィジーの日本人社会にこのニュースが広がり、今年に入りナンディにある日本人向けの英語学校の生徒が村にホームスティしたという。村の何人かの子どもに「ナンディから来たの」と聞かれた理由が分かった。スバやナンディなど大都会では治安が悪く緊張して過ごさなければならぬので、この村の平和な雰囲気英語学校側も気に入ったのかも知れない。

ラウトカの町についたのが3時半過ぎ。ホテルに入る前に飲み水を確保したいと思ったが、日曜日のためどこのスーパーも閉まっている。予想つけて行った店も日曜は午後1時までとの看板が下がっていた。ホテルで水を沸かすことにする。

ラウトカの海岸を散歩しながら、JICA 関係者との会食のため中華料理店に向かう。斉藤さんご夫妻(シニアボランティアで医療機器のメンテナンスの仕事)と城秋桜さん(体育指導)がご一緒する。斉藤夫人が新潟生まれで、ご主人も東京の方が新発田高校卒とのこと。フィジーでの生活の話やボランティア活動について話を伺う。子ども達にフィジーの感想を聞かれたので、ホテルに戻ってやろうとしていたミーティングをここです。「日本を離れてからの感想、自分の研究テーマについて」自己紹介を交え話した。一通り聞いてもらって斉藤さんの「日本と水準だけを比べてはいけない」とおっしゃった言葉を重く受け止めた。城さんは、山岸さん(柏崎出身今年フィジーより帰国隊員)と同じ仕事で「地元が支えてくれるのはいいですね」と今年の私達のボールを持って来た活動を評価してくれた。明日は城さんの訪問校の交流内容を打ち合わせる。食材等は買い出ししてくれている。

平成 25 年 7 月 29 日(月) ラウトカ・シンガトカ・ツバクラ

9 時にホテルを出発し5分でラウトカデラナ小学校に着く。小学校では全校集会中で、校長先生はじめ先生方が並んでいる。校長先生の許可を得てみんな並ぶのは今まで先生方が座っていた席であった。その後交流するクラスへ行く。城さんが自分の授業の時間を空けてくださり、調理室が無いので、敷地内にある職員住宅を貸してもらうことになっていた。交流するのは小学校5年生のクラスである。斉藤さんから「箱に肉の絵があると没収される」と教えてもらっていたので、外箱から出し袋に入れて持って来たルーと人参・ジャガイモ・タマ





ネギ・鶏肉のカレーを日本の子フィジーの子と一緒に準備を始める。皮のむき方や包丁の使い方が違う、米の袋に小さなアリがいるなどとワイワイ言いながら調理をする。出来上がるのを待っている間に、準備したスケッチブックなどを使い、英語で日本の季節・行事・柏崎の花火などについて紹介する。そして遊び紹介では紙ふうせん、竹とんぼ、折り紙をいっしょに遊ぶ。カレーの交流は大成功で、フ

ィジーのお米にもよく合いおいしく出来上がった。調理には斉藤夫人も手伝ってくださった。

1時に小学校を離れ、ナンディで最終日のホテルのリコンフォームを行い、ツバクラのあるコーラルコーストを目指しバスで移動する。飲み水や食料品を買うために大きな町シンガトカのスーパーに寄る。石垣先生はスバに戻るためここでお別れする。水・米・野菜・ハムウインナ・おやつ・果物などを買って、バンガローに入る。調理器具や食器もある程度そろっている。

USPで予約してもらったので25%も安くなっている。夕食は百合子さんが日本から持って来た具材を使ってお稲荷さんを作ってください。みんなで米研ぎやおにぎりの手伝いをして、久しぶりの味噌汁とごはんの日本食を楽しむ。みんなのお腹もほっとした事だろう。夕食朝食はみんな一緒に私達のバンガローでとることにする。

振り返りミーティング

話題：村のホームスティや学校での交流をして不思議だなと思った事



平成25年7月30日(火) ツバクラ・シンガトカ

日本を出発して5日目、午前には荷物整理と洗濯の日とする。午後は路線バスを利用してシンガトカのスーパーや市場まで買い出しに行く。都会と違い治安はよい方だが必ず単独では行動しない事を強く話す。朝食時に今日一日仲間を観察し、誰がみんなのためや誰かのために何をしたか、自分はみんなのために何をしたかを観察しようと課題を出した。観光地で土産物屋もあるので、それぞれ自由に過ごす。スーパーで待ち合わせし、夕食朝食の買い出しと市場で買った野菜果物を手分けして運ぶ。帰りのバスは路線バスでちょうど学校帰りの時間となった。どんどん学校の子が乗ってくる。なかなか出発しないのでその間現地の子ども達との会話を楽しむ。乗せたり降ろしたりしながら住宅地を進む。走ったかと思うと50mも行かないうちにリンリンと降車ベルの紐を引く。行ったり来たり乗せきれなかった子をまた迎えに戻ったりしてなかなかツバクラへ着かない。私の心配そうな表情を読み取ったのか、ドライバーがフィジーの子に伝え「このバスはツバクラ通るから」と通訳してくれた。町ではそれぞれウインドーショッピングをして、だいたいかたまって行動していたようである。日本語を話す土産物屋の客引きもいた。

バンガローにもどり、散歩をしたり、ヤシの木に登ってみたり、貝殻を拾ったり
思い思いに過ごした。そしてみんなで夕食を作る。今日はパエリヤ！

振り返りミーティング

話題：自分はグループのために何が出来たか、メンバーが誰のために何をしたか。

平成 25 年 7 月 31 日(水) ツバクラ・タブニ・大砂丘・ナンディ



9時に迎えのバスが来るので8時45分ロビー集合とする。15分ほどでタブニの砦に着く。昔、トンガの首長が一族の争いを嫌い周りの者をつれタブニに住み着いたといわれのある所。トンガの子孫の人が史跡をガイドしてくれる。歩く所々に貝殻があり、敵がせめて来たときに音がするように敷いたものだと説明し

ていた。階段的に住居跡があり、位が上がるにつれて上の場所に住居を造り、一番高い所には首長と牧師の家があったそうである。カニバリズム(食人)の風習のあった頃で敵を生け贄としたとの説明をした大きな石の周りではみな無言。シンガトカ川河口の高台にあり、南太平洋観光局の遺跡開発事業として十数年前に整備されたとの説明があった。しかし観光客が一休みするように作られた屋根のある見晴し台のような所は壊れていて、嵐で壊されたと説明してくれたかが直す計画は今のところないらしい。砦だけあって見晴らしもよく眼下の川では貝漁をする人たちが見え、反対の山に設置されている風力発電が尾根にそって見られた。戻る道すがら、多くの野生植物を見る事が出来た。入場料は大人 12F \$



次にシンガトカ大砂丘国立公園に向かう。公園入り口で入場料を払いガイドをしてもらう。長時間コースと短時間コースのどちらかを選ぶかと聞かれ、長時間は2時間以上かかるとの説明で短時間コースを選ぶ。砂丘までの道は上りがあり結構歩く。20分ほど歩き、サーフィンをしている人がサメの犠牲になるというニュースが毎年あるという海が見えるところの、大砂丘の入り口近くまで行き引き返すことにする。砂の道の上り下りは城さんのアドバイスのとおり裸足がよい。足裏の面白い感触を楽しみながら降りて来た。帰りは国立公園となっている自然保護林を通る。出口近くの大きな木にしがみつくように木の蔓などで作ってある人形があった。一瞬不気味に思えたが、説明を聞くと納得した。子ども達もこの光景は印象深かったようである。(私がガイドから聞き取った内容では)ネパールで起きた森林開発に反対した人たちが伐らないでほしいと木にしがみつuki乱開発を免れたということ参考に、



ある NPO がこの公園にあるマホガニーや価値のある木に人形を作ってつけたとのこと。環境保全もこんな形で目に見えるように飾るのもよいと思った。詳しい説明を知りたいとパンフレットがほしいと事務所に言ってみたが、無いという。メールで送るからということでアドレスを残して来たが、まだない。

ナンディのホテルに戻る前に、両替が必要なので、案内してもらおう。空港の銀行より町の両替屋の方がレートはよい。ホテルにチェックイン。29 日にリコンフォームした時の話と違う。USP から予約してもらった時とも違いしばし交渉。話がまとまり最終地のナンディ滞在がはじまる。夕食は近く中華料理屋へ行く。フィジーは冬であると実感するのが日の入時間、6 時には暗くなり始める。朝食用の食材を買いながらレストランへ行く。スーパーも 7 時には閉まってしまう。ここはナンディ空港近くの郊外とはいえ都会であり、ネットカフェの客引きが多く怖くなった子もいた。

振り返りミーシング

話題を設定しないで、自由に話をし、みんなの表情・体調等を観察する。

平成 25 年 8 月 1 日(木) ナンディナマカ地区

少し熱っぽい子が出たため大人の部屋で休める事にする。37℃後半だが食欲は落ちていないようなので様子を見る。普段から体温は高い方で、扁桃腺の熱も出やすいのだそう。薬を飲むと下がるのだが、まだ本調子ではない。一番弱い子に合わせるという旅の基本を事前研修で話していたので、当初予定していたナンディの中心デナラウ地区や海岸部に出かけないで、ホテル近くのナマカ地区を散策することに変更する。スーパーもいくつかあり市場もある。市場は警察署のとなり。公園もホテルの目の前。だが出かけようという子はいない。熱も収まりつつあるので、昼食がてら買い物へみんなで行く。食事は日本で食べなれたチキンとフライドポテトの店。開店したてのようで真新しいし客もまばら。スーパーで朝食用のパンを買ったり、ハム・ジュース・果物等を購入。男の子達は 1\$ で遊べるホテルのビリヤードへ行く。大人もつきあう。夕食について、女の子達は外に出たくないといい、男の子は昨日の店では遠慮して食べられなかったので再度行きたいという事になる。ホテルのレストランで値段を確かめ、女の子達はホテルのレストランで、男の子達と大人は昨日の LC's へ行くことにする。ホテルのレセプションのすぐ脇がオープンなレストランなので、レセプションのスタッフに日本の女の子達がここで食事するからと話をし、出かける。みんな助け合って具合の悪い子の荷物を整理したり、手伝ってくれる。外から戻り、様子を聞くと大きなプレートを注文し分けて食べたとの事。外食組も大満足。最後の帰国前ミーティングを行う。明日はほぼ一日飛行機移動になるので、早く寝る事をすすめる。帰国直前感想文を書くように促す。提出は柏崎に着くまでにとの期限をつける。ホテルのレセプションで明朝の空港へのバス送迎時間の確認をする。スバの石垣先生にも無事元気で帰国できそうですとのメールを入れておく。

10 時近くホテルの電話が鳴った。車の修理でナンディに来ている田中専門家からだった。修理が長引き今夜はナンディに泊まる事になってホテルに来たら日本の子達がいると聞いた。市場で魚 60k が完売したと伝えてなかったのも、高校生に伝えてほしいとの内容だった。田中専門家の真摯な態度に敬服する。多くの人の善意でこのスタディツアーが成り立っている事を実感した。

振り返りミーティング

話題：フィジーで気づいた事、思った事の感想

平成 25 年 8 月 2 日(金) ナンディ・韓国仁川空港・羽田空港

7 時 15 分ロビー集合、チェックアウト、ナンディ空港へ移動。熱のあった子どもだんだん顔色も良くなってきた。一安心する。

飛行機は 10 分ほど遅れてナンディ空港を飛び立ち、仁川空港へ。機内で日本時間に合わせる。3 時間戻る事になる。乗り継ぎ手続きの列を進み出発ロビーへ。ナンディで渡されたチケットには搭乗ゲート番号が記入されていない。空港内の案内板にはまだ時間があるので表示は出ていない。仁川空港 2 階の大韓航空の乗り継ぎカウンターへ確認に行く。11 ゲートだと教えてもらい、みんなで 11 番ゲートまで行き自由行動とする。そして羽田空港への KE719 便に乗り込む。周りは当たり前だが日本人が多くもう帰国した気分である。検疫や忘れ物ハプニングもあったが無事出国。

団体バス乗り場で待っていた越佐観光バスに乗り込み、柏崎を目指す。

平成 25 年 8 月 3 日(土) 柏崎

関越自動車道も順調で 4 時 45 分に西山 IC に着く。石垣さんはこちらで下車。柏崎には 5 時ごろ着くが、時間調整で中央海岸の公園でバスを止める。5 時半プラザ前にバスをつけ、保護者の出迎えを受け解散となる。

多くの人のかわり成り立っているスタディツアー。2 月頃から現地とやりとりが始まり、渡航直前まで企画の変更や情報交換が続く。現地に受けてくれる人材がいるから成り立つ企画である。今回お会いした方々以外にも準備や手配に多くの方々が関わってくださった。本当にありがとうございました。

一緒に旅した仲間にも感謝したいと思う。百合子さん、子どもたちを見守ってくださった的確なアドバイスをありがとう。敏希さん、体温計や薬ありがとう、助かりました。華佳さん、体調管理や荷物整理をありがとう。文香さん、食事の準備片付けを率先してやってくれてありがとう。浩平さん、いつもナイトの役割をしてくれていたこと気付いていましたよ、ありがとう。みなみさん、学校の交流やバンガロー活動で進んでリードしてくれてありがとう。瑛理さん、シンガトカでの街歩き、みんなを助けてくれましたね、ありがとう。みんなが役を担って実践してくれたスタディツアーは、フィジーで出会った人たちにもきっと良い思いを残してくれていると思います。そんな力を発揮してくれたみんなでした。



(文責：清水)